

*すべての設問は、「次の文章を読んで、後の問いに答えよ」という大前提のもとにある。まず読むこと。
 *正しく読めていなければ、解けないのは当然であるが、正しく読めれば、それだけで解けるわけではない。
 *現代文の設問を「正しく解く」とは、各設問要求に対して、下記の三要件を満たす対応を行うことである。

「正解答」であるための三要件

- ① 構文の正しさ（論理性）……設問箇所と設問要求とに対応した正しい**構文（主一述、接続関係）**になっているか
- ② 内容の正しさ（客観性）……本文の**重要語句（指示対象やKW）**中から必要なものを正しく適用しているか
- ③ 表現の適切さ（一般性）……**比喩・具体例・特殊なニュアンスの「 」**などを用いず、**一般的表現**を用いているか

設問タイプ別 解答法

[1] 心情の説明（どういう心情か説明せよ） 設問形式は多様であるが、解答の根幹は心情要素である

*「どういう心情（気持ち）か」という問い方とはかぎらない

(例) 傍線部「少年は、この言葉にうつむいた」とあるが……

問 このときの少年の心情を説明せよ

答 少年は、～と聞かされたために、自責の念に駆られている。(自責の念に駆られるという心情。)

問 それはなぜか

答 少年は、～と聞かされたために、自責の念に駆られたから。

問 それはどうか

答 少年は、～と聞かされたために、自責の念に駆られているということ。

① 設問要求と傍線部を含む一文（含む場面）とから、**主体人物と時系列上の位置**を特定する

(例) 傍線部「(彼女は) かつて彼に言われたことを再び思い出していた」とあるが、このときの……

主体（主語） 「彼女」(が思い出している)

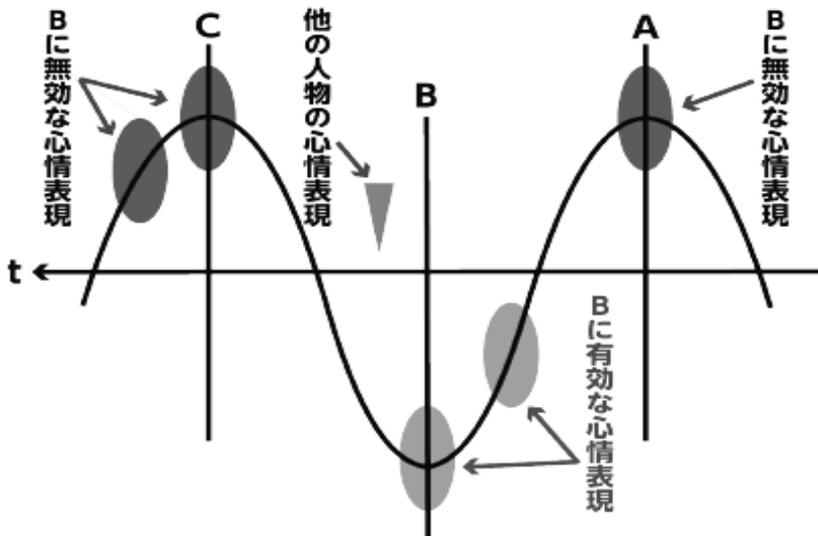
時系列上の位置 かつて彼が言った (t₁) →彼の言葉を思い出した (t₂) →今再び思い出している (t₃)

解答要素 彼女は、かつて彼の言った言葉のある時思い出したが、それをまた思い出した今 (の心情)

*時系列が異なる誤答が多いので要注意!

② ①の時点での、傍線部の**主体の心情表現**を、本文中のマーキング箇所から**特定する**（場面中の心情表現）

(例)「(彼女には) それがつらかった」「彼女は背ざめた顔を彼に向けた」



- ③ ②で特定した心情の「**説明（対象・理由・状態）**」を確認する 何（誰）に対して、なぜ、どのように
 (例)「不安」
 a 彼に本当のことを知られるのではないかとことに対する (不安である)
 b 今までのように信頼してもらえなくなる恐れがあるので (不安である)
 c 片時も心のやすまる間のないほどの (不安である)

④ 解答を記述・選択する

記述式の場合

- 1. 解答の構文＝主語と述部（心情表現）の確定
 (例)「彼女は～不安である (という心情。)」 「彼女は～不安になっている。」
- 2. 心情の説明 (対象・理由・状態) を本文から判明する範囲で行う
 (例)「彼女は、彼に本当のことを知られてしまうと今までのように信頼してもらえなくなる恐れがあるので、片時も心のやすまる間のないほど不安になっている。」 (70字)
- 3. 字数調整 (解答要素の追加や表現の調整)
 a 「60字以内で説明せよ」 → 10字以上削減
 (例)「彼女は、彼に本当のことを知られると、今までの信頼を失う恐れがあるので、片時も心のやすまる間のないほど不安になっている。」 (59字)
 b 「70字以内で説明せよ」 → 解答終了
 c 「90字以内で説明せよ」 → 追加する解答要素の検討 (約10字分・約1分間で検討)
 *傍線部 (を含む一文と隣接する会話) の**表現ニュアンスを正確に反映する**
 (例)「彼女は、嘘をつかないから彼女を信頼すると言う彼に、本当のことを知られてしまうと今までのように信頼してもらえなくなる恐れがあるので、片時も心のやすまる間のないほど不安になっている。」 (89字)

選択式の場合

- 1. 特定した心情表現と選択肢中の心情表現箇所（基本的に述部）を照合する
 (例)「不安」で絞る → 2～3個の選択肢 (①・③・⑤) が妥当
- 2. 上記③の説明部分の要素と合致するか照合する
 (例) 上記「a・b・c」と一致する選択肢にさらに絞る → 1個の選択肢に確定 (③) が妥当
 *確定しきれない場合にかぎり……
 → 3. 傍線部 (を含む一文と隣接する会話) の**表現ニュアンスを正確に反映する**選択肢に絞る

[2] 表現の説明 (主にセンター試験の間6)

- ① 表現説明の3要素
表現技法のタイプ・種別の指摘 (の正誤) ……比喩・象徴・感覚的描写、語りと視点 (焦点)、記号と表記など
表現された内容の説明 (の正誤) ……人物の心情、人物像、場面の印象、展開、筆者の主張 (評論) など
表現技法の効果・使用意図の説明 (の正誤) ……具体的な想像を喚起する、現実味 (リアリティ)、強調など
 解答形式 本文中の「○○」「△△」などのように、(一般的に)「ある特定の**表現技法**」を用いることによって、「ある**本文内容** (人物の心情や人物像、評論では筆者の主張など)」を、「ある**表現効果**」で描いている。
- ② 表現技法のタイプと表現された内容と表現効果・意図の各々だけではなく、それらの整合性の真偽も検討する
 (例) 本文中の「○○」「△△」などのように、擬人法を用いることによって、主人公の動揺する心情を生き生きと描いている。
 → 検討1 「○○」「△△」は、どちらも本当に「擬人法」なのか?
 検討2 「○○」「△△」は、どちらも本当に「主人公の動揺する心情」なのか?
 検討3 「擬人法」によって「生き生きと」させることが可能なのか?
 *センター試験の選択肢では「内容上の虚偽」「表現技法と内容との不整合」が多い
 *表現技法の効果・意図の説明は最も難しいので、選択肢の吟味としては後に回してもよい
- ③ 「語りと視点 (焦点)」「比喩・象徴・感覚的描写」「時系列・構成」「記号・表記」「リアリティー」「強調」が頻出
 *「表現」に関する最低限の基礎理解を習得すること